

大阪市内の小・中学校で発生する大量の紙ごみを再生して有効利用ようと、特定非営利活動法人（NPO法人）「グリーンコンシューマー大阪ネットワーク」（大阪市中央区、山口百合子代表）が、古紙回収業者と協力してボランティアでリサイクルに取り組んでいる。資源回収とごみ減量に向けた取り組みとして、市内でのモデルケースとなりそうだ。

06.8.4

大阪毎日

回収し再生、還元

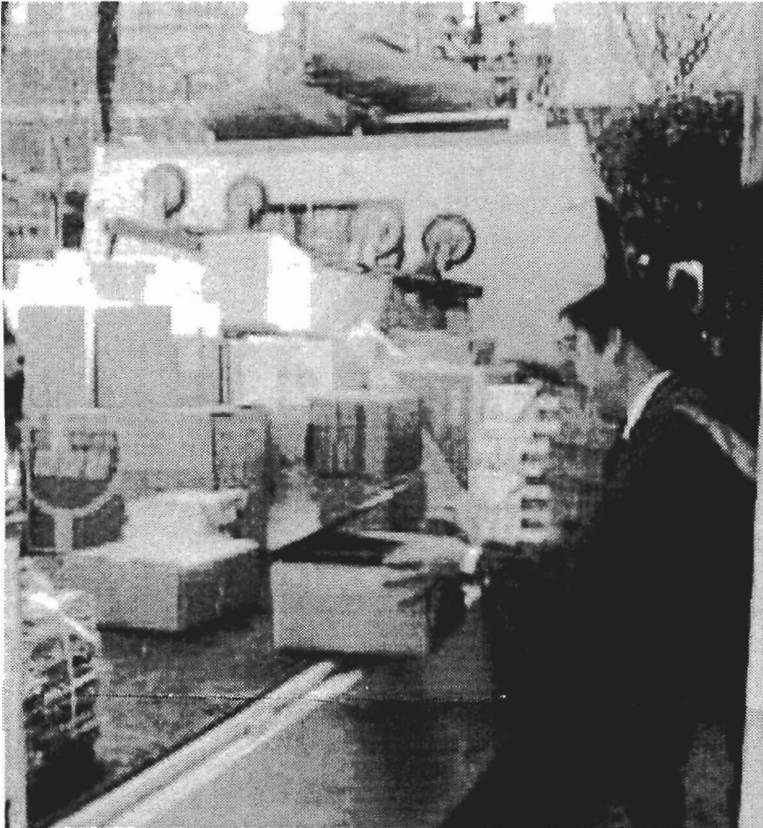
学校の紙ごみ

「もったいない」

同ネットワークは循環型社会の形成に取り組む「紙ごみ」もったいないやんか「プロジエクト」（山中徹代表）を立ち上げた。昨年三月、市内の小中学校の紙ごみを調査したところ、一校当たり年間五百ポンドの使用済みの書籍や紙ごみが出ていることが分かった。市内には小・中・高校が四百五十校あり、年間約二百二十五ポンドの紙ごみが発生した計算になる。

大阪市は、紙ごみを家庭ごみと同様に一般廃棄物として回収し、焼却処分している。

このため、山中代表らはリサイクルシステムをつくるために古紙回収業者「関西製紙原料



リサイクルのため無償で紙ごみを回収する古紙回収業者。

大阪市のNPO法人、業者と連携

事業協同組合」（大阪市）に協力を依頼し、無償で紙ごみを回収してもらっている。

現在、八十四校が回収に協力しており、これまで紙ごみが大量に出る年度末と五月に回収。年末の十二月十四・二十三日にも回収することを決めている。

回収した紙ごみはコピー用紙やトイレットペーパーに再生し、学校に還元している。

ただ、学校側には「古紙を積み上げていると、火を付けられないか心配」などの声もあり、協力は現在、全校の約五分の一にとどまっている。

同ネットワークの山口代表は「半分以上の紙ごみを回収したい。環境問題に対する取り組みは教育にもつながる」と話している。